

# 平和のために今、何ができる？

## 子ども平和コンサート

広島に原爆が投下された8月6日、「大網白里子育て支援ネットワーク協議会」により、城島石巻市から、夏休みを利



▶「わたしたちができること」をテーマにしたグループ発表

用して訪れた親子31人も参加。戦争だけでなく広く、平和について考えました。

原爆が投下された午前8時15分には、テレビ中継に合わせ、全員で黙とう。その後、「戦争体験語り部の会」のメンバー4人が、「二度と戦争を起してほしくない」との思いを込めて、当時の生活や空襲から逃げる様子を語りました。メンバーの石川庄六さんは「人が人を殺すことは、絶対にあってはいけない。戦争がもたらすのは悲惨なことしかない」と改めて戦争反対を訴えました。

また、町内の学童保育やボランティアの各グループが、東日本大震災の被災地でのボランティア体験や、戦争をテーマにした読み聞かせなどを披露。最後には全員で合唱し、平和な社会を祈りました。

# 通るのが楽しくなる駅前

## 大網高校が壁画を製作



▶丁寧に色を塗る大網高校生徒

県立大網高校の生徒が、JR東金線陸橋下に、カラフルな壁画を製作しました。これは、JR大網駅周辺の美化を図ろうと、町から県立大網高校に委託したもので、夏休み中の一週間をかけて、美術部と生徒会・生徒の有志が製作。8枚ある壁画には、「おおあみしらす」との頭文字を取った8匹の動物が描かれています。

▶生き物を探る参加者



7月27日、小中川の上流で、「自然観察やまぼうし」による、子ども観察会が行われ、夏休み中の親子連れ29人が参加しました。今回で6回目となるこの観察会は、自然環境保護の大切さを感じてもらおうというもので、川の水温や水の透明度、流れの速さなどを調べた後、水辺に生息する生き物を調査しました。

# 世界に一つ自分だけのおもちゃ

## 子ども村「竹細工でなに創ろう」



▲弓矢を飛ばして遊ぶ子どもたち

自然の遊具の中で、子どもたちがのびのびと遊べる、「エコパーク大網白里子ども村」(清名幸谷)で、7月23日、竹を使って昔ながらのおもちゃを作るイベントがありました。参加した子どもたちは、竹を小刀やキリで削って、弓矢や竹とんぼ、水鉄砲などを製作。子どもたちは、ぎこちない手つきながらもゆっくり作業を進め、おもちゃを完成させました。その後、作ったおもちゃを、遠くまで飛ばす競争などをして遊びました。弓矢を、一番遠くまで飛ばした山中飛雅くんは、「初めて作ったけど、よく飛ぶように工夫して作った」と話してくれました。主催した「大網白里子育て支援ネットワーク協議会」の丸田光男代表は「おもちゃを完成させるまでには、いろんなハードルがあり、とても根気のいる作業。今の子どもたちはすべて与えられている環境にいるので、こうした工作はとても大事」と意義を話しました。

# 被災地の若者を助けたい

## 角河博文さん



東日本大震災の被災地では、多くの企業が甚大な被害を受け、高校生の内定取り消しが問題となっています。角河博文さん(駒込)は、こうした高校生を助けようと、尽力しています。

東日本大震災の被災地では、多くの企業が甚大な被害を受け、高校生の内定取り消しが問題となっています。角河博文さん(駒込)は、こうした高校生を助けようと、尽力しています。

その後も、角河さんは釜石市や大槌町で就職セミナーを行うなど、精神的に高校生への支援を展開。自身の経営するアパートを就職の決まった人に提供するなど、私生活での支援も惜しみません。角河さんは「こういう時こそ、ライオンズクラブのネットワークで、できる支援を続けたい」と話してくれました。

# 世界と「コミュニケーション」できる人に

## 松橋野笛さん



「日本はすべてにおいて、サービスが充実している」と感じたという松橋さんは、現地で「医療サービス」という概念を伝えることに苦労したことや、パワーポイントで作ったというイラスト入りのテキストが説明に効果的だったことなどを話してくれました。

青年海外協力隊としてベトナムに派遣されていた、助産師の松橋野笛さん(北飯塚)が6月末に帰国し、金坂町長に現地での活動を報告しました。松橋さんは、ギョーロック郡総合病院に配属され、日本で学んだ知識を生かして活躍。医療サービスや技術を、現地に伝えることに奔走しました。